

月刊

# 地域保健

9  
2013

●特集

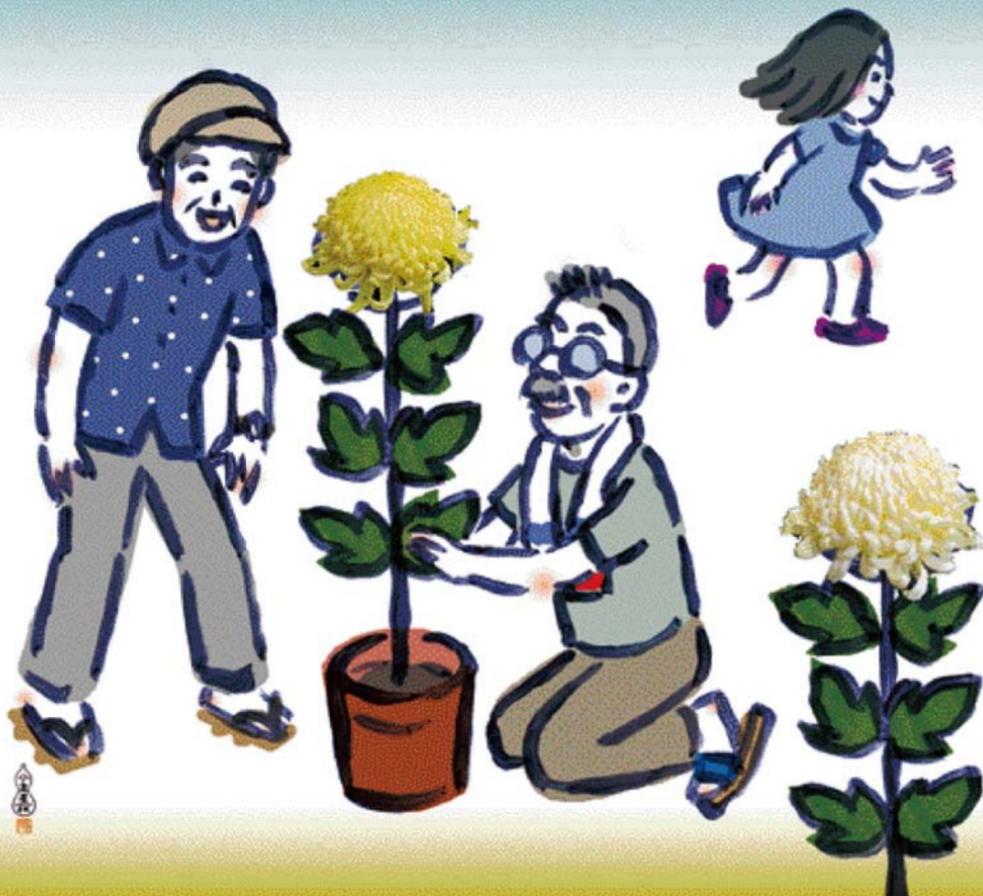
## 「保健師活動指針」を読み解き、活用する

●フロントランナー

照屋 淳さん 〈中城村役場 税務課 納税係長〉

●ピープル

星山麻木さん 〈保健学博士・音楽療法士 こども家族早期発達支援学会会長〉



FRONT  
RUNNER  
フロントランナー

沖縄県  
中城村

照屋

淳

さん

● 中城村役場 税務課 納税係長

保健事業は保健師の力だけでは決してなし得ない

財源確保の立役者の存在をお忘れなく！

沖繩の夏は心地よい。どでかい太陽が大空に鎮座し、無量の光と熱が大地と大海原に降り注ぐ。時に雲や嵐に遮られながら夏の息吹をはぐくむ。草木を伸ばし花を広げて虫を遊ばせ、鳥や獣や魚を躍らせ人を喜ばせる。

かような生きとし生ける物の楽園が奈落の苦しみにあえいだ夏もあつた。鎮魂の習いが絶えることはない。今も沖繩県人（ウチナーンチュ）は米軍基地と隣り合わせの暮らしを余儀なくされ、強大な隣国が有する軍事力の脅威にもさらされている。遠地にいると、そうした日常はとらえ難い。

今月紹介する照屋淳さんは沖繩で生まれ育ち、看護師・保健師として通算17年勤務。今春からは行政マンとして税務に携わり新たな境地を開こうとしている。社会人ウチナーンチュの来し方、近況を伺うと、平素の沖繩が垣間見られるかもしれない。そんな関心も抱きながら現地に飛んだ。

## 中城村の人口増加率は 沖繩県内トップクラス

中城村役場は沖繩本島の中東部、

那覇空港から北東へ車で1時間ほどの所にある。村は東西3.5キロメートル、南北7.5キロメートルと細長く、東は中城湾に面し、西は宜野湾市、南は西原町、北は北中城村に接している。海側の通称「下地区」は農漁業が盛んで古民家が多い。西側の丘陵に広がる「上地区」は近年急速に開発が進み、商店やアパートが増えてきている。

人口は1950（昭和25）年から長らく1万人前後であったが、90（平成2）年に1万2000人を突破。県内トップに迫る高い増加率を保ち、現在1万8712人（6月末時点）となっている。特に年少人口（0〜14歳）割合は17.0%（2010年国勢調査「確報値」と高く、この春新たに村立小学校を1校増設した。ちなみに沖繩は

都道府県で唯一、年少人口が老年人口（65歳以上）を上回っていて、生産年齢人口（15〜64歳）の割合が首都圏並みに高い。

## 「将来は医者になる！」 高卒後に浪人生活3年

照屋さんは中城村の出身ではない。1970（昭和45）年、同村の北西、宜野湾市の北隣にある北谷町（ちやたん）で生まれた。同町は美しい夕日が眺められる西海岸を中心に近年にぎわっている半面、全面積の53%を米軍基地が占めている。基地のない中城と異なり、深刻な基地関連事件・事故が多発し、危険や不安を伴う日常生活を強いられ、町作りも妨げられてきた。

北谷の小・中学校を卒業後、照屋少年は那覇市の東隣、南風原町（なまかぜ）に新設された開邦高校に入学した。同校は県立ながら「将来の沖繩県のリーダー」ではなく、日本国を背負って立つ人材

10年ぶりに改訂された「保健師活動指針」（以下、指針）では、特定健診・特定保健指導の導入、がん対策・自殺対策などの法整備など、保健師活動を取り巻く状況の変化を踏まえ、保健師が進むべき方向を整理し明示している。第一線で活躍する保健師たちにとっては、事業や日ごろの活動を整理し全体を俯瞰する上で、またとない便利なツールとなるはずだ。一方で、指針を咀嚼しきれなかったり、指針に基づく具体的な展開が思い浮かばなかったり、指針自体をあまり活用していないといった実態もある。

特集では、指針に盛られた文言の背景を分かりやすく解説するとともに、有識者による論評、現場保健師の生の声をお伝えする。

**P18** 活動指針を具体的に読み解く  
保健師活動指針のポイント

◎取材協力 中板育美さん（日本看護協会）

**P30** 活動指針を私はどう見る  
「地域社会に蔓延するリスク」という視点から

◎岩室紳也（地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター）

**P36** 活動指針を私はどう生かす【都道府県の保健師として】  
「ひょうごの保健師業務ガイドライン」を中心に

◎松下清美（兵庫県 健康福祉部）

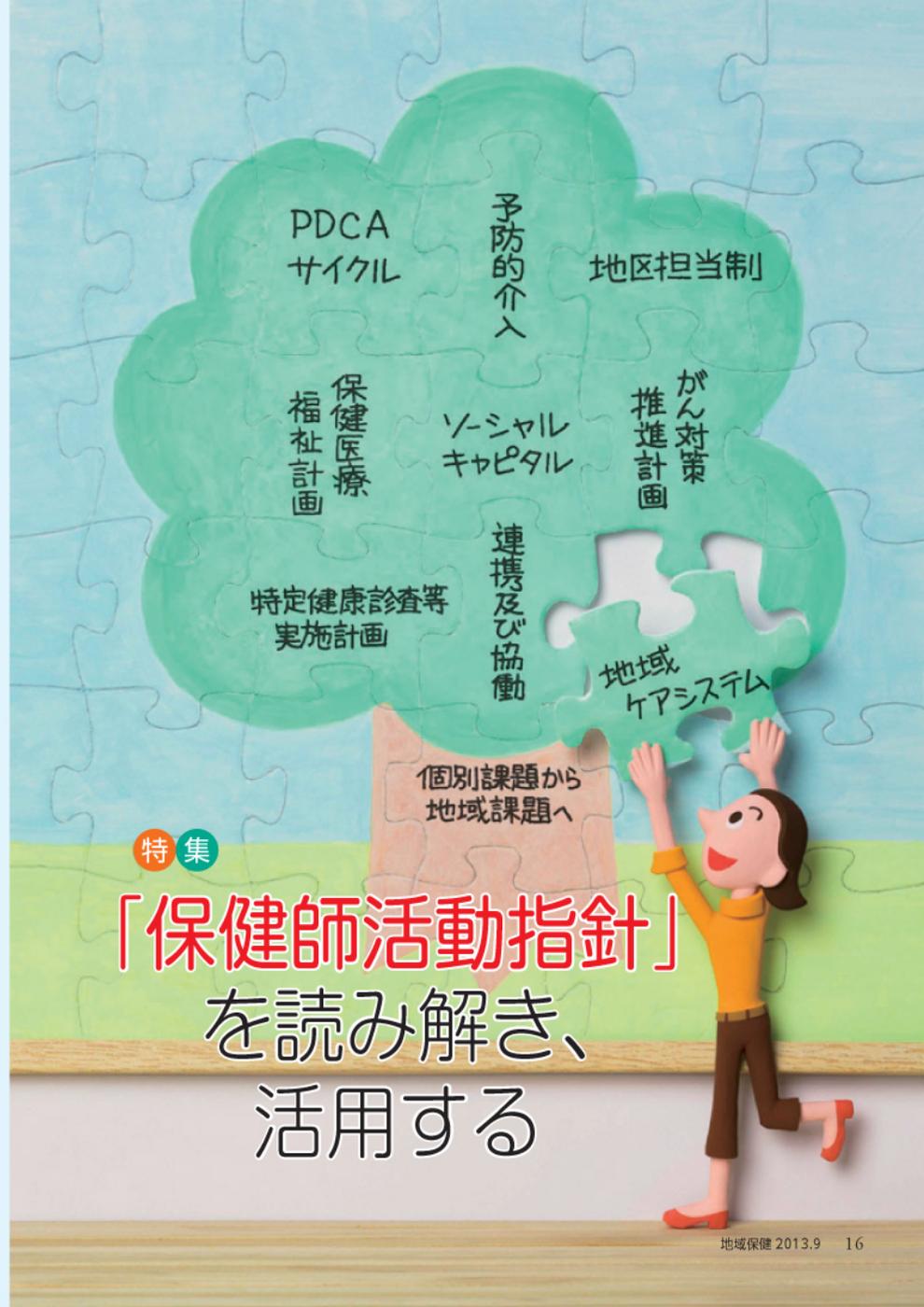
**P43** 活動指針を私はどう生かす【保健所設置市（政令市）の保健師の立場から】  
「大阪市の保健師活動の指針」に盛り込みたいこと

◎朽木悦子（大阪市 健康局）

**P48** 活動指針を私はどう生かす【市町村の保健師として】  
住民参加と情報の共有で一体的な活動を展開

◎熊谷多美子（滝沢村 健康福祉部）

ペーパークラフト：ヒロ



特集

「保健師活動指針」  
を読み解き、  
活用する



# 大好きな柏崎を、 健康で幸せなまちに

—それが、私の何よりの夢

わたなべ ほう  
**渡辺 悠さん**

● 柏崎市 福祉保健部  
元気支援課 地域保健係



文＝編集部 写真＝ C.Kent

## 輝く海に見守られて

光輝く海をバックに勢いよく「ジャンプ!」。いい笑顔ですね。

渡辺悠さんは、野球、マラソン、バレエ、サッカー、何でもこなすスポーツマン。さすがにバネが違います。柏崎市は、渡辺さんにとっては生まれ育った大切なふるさと。そして社会人として第一歩を踏み出したところでもあります。

## 「男性」は気にならない

「ひよこ」シリーズでは久々となる男性保健師の登場。ついつい「女性ばかりの職場で大丈夫?」「男性一人が孤独なんじゃないかしら」などという考えが頭をよぎってしまいます。しかし渡辺さんの場合はそんな心配はまったく無用。同じフロアには男性職員も



▲渡辺さんのお父さん。同じ建物内にある障害者サービスセンターで働いています

ハンディキャップをもった人たちが、施設以外に居場所がなく、閉鎖的な環境に置かれていることに対して違和感を持った渡辺さんは、福祉関連の職業につけば、何か手助けできることがあるのではないかと考え、社会福祉士になろうと決心しました。しかし社会福祉士は、就職先によって、障害者、高齢者、入院患者など、対象がはつき

たくさんいますし、女性保健師の先輩や後輩たちとのチームワークも申し分なし。これからは、男女一緒に保健活動をしていくのが自然な流れだと感じました。

「最初入ったときは、女性が多かったのですが、確かにちよつとまどいましてから」という違いは気になりませんが、私が中性的なんでしょうか(笑)。男らしくありたいと思ってるんですけど……」

## 障害者も高齢者も 健常者も、みんな一緒に

渡辺さんのお父さんもお母さんも、もともと福祉職に従事されていたため、子どものころはご両親の職場である障害者施設に遊びに行ったり、特別養護老人ホームなどにボランティアや職場体験学習で参加したりしていたそ

りと決められてしまいます。ご両親に相談したり、さまざまな情報を得たりする中で、少しずつ気持ちが変わってきたといえます。

「私は、年齢や対象で区切りたくないんです。いろんな人とかかわりたい。お年寄りも障害がある人も、全部です。そんなことを言ったら、もう保健師しかないですよね」

## 「絶対、柏崎をよくする」

渡辺さんは、高校を卒業してから神奈川県看護系大学に進み、迷わず保健師を選択しました。大学の同期は、卒業すると大学の近隣地域で就職する人が大半でした。でも渡辺さんは、絶対地元に戻ってきたかったそうです。しかし柏崎市では何年もの間、保健師の募集をしませんでした。そこで新潟県の保健師や、柏崎市の一般行政



▲「子どものころから海を見て育ちました。この景色を見ると、心が落ち着くんです」

うです。このころは、地域にグルーブホームなどはほとんどありませんでした。

「施設に入っている人たちを見て、子どもながらに『なんでこの人たちはここにいるんだろう。支えてくれる人がいて、助けてくれる人がいれば、地域と一緒に暮らしていけるのに……』と考えていました。『強い人も弱い人も、一緒に生きていける社会をつくりたい』と思いました」

職を目指すことにしました。柏崎市の一次試験が通り、さあ二次試験を受けようというとき、なんと、柏崎市で保健師の募集が1人あり、すぐに応募して採用されたそうです。

「すごくラッキーだったと思います。『絶対、柏崎をよくするんだ』って、熱意だけで入れてもらったような気がします」



▲保健師や保育士の先輩たちと